

# 東方学院松江校 講義案内 (受講料以外に年会費¥3,000が必要)

## 1 『観無量寿経』を読む

【全12回】／開催方法：現地

さいとうしゅんけん  
齊藤舜健

浄土宗総合研究所  
主任研究員  
浄土宗西方寺住職



受講料 会員料金：¥20,200 早割価格：¥19,200(納入期限：4月14日)

【日 程】【全12回】 2回／月 第1・3・5金曜日  
(4/21、5/19、6/16、6/30、7/7、7/21、10/6、10/20、11/3、  
11/17、12/1、12/15)

【時 間】13：20～14：50

■受講に必要なもの

[テキスト] レジュメ配布

我が国では浄土系宗派の信者が全仏教徒の約半数を占め、それらの浄土系宗派の多くは法然（1133-1212）から始まる。法然がその教えの根拠としたのが『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』の三経典で、浄土三部経と呼ばれる。これらは中国の善導（613-681）や法然の理解を通すことで、わが国の浄土教・阿弥陀仏信仰の根元となった。信徒数の多さとあいまって、わが国の精神文化への影響は尽大なものといえよう。そのうち『無量寿経』には、阿弥陀仏が仏となった経緯、阿弥陀仏によって救われる理由などが述べられ、『観無量寿経』では阿弥陀仏の国土・聖衆の姿や、往生人たちのイメージ化などが述べられる。いずれも中国において多くの註釈研究があり、わが国でも伝来以後様々に理解されてきた。特に法然以後は浄土系諸宗派の宗義学の立場からの研究の積み重ねがあり、内容の理解はもちろん、語句や構文の理解に到るまで、宗義学的な裏づけ、後付の解釈が与えられている。その影響は極めて大きく、それらの理解を離れての読解は困難な点があるので、それらにも目配しながら、経典本文を読み進めて行きたい。

令和5年度は4年度からの継続で『観無量寿経』（下品上生から）を読む。初回は読了部分の内容を確認する。また、『観無量寿経』読了後、引き続き『阿弥陀経』を講読する。

### 【参考書】

- ①【現代語訳】 浄土三部経 著者：浄土宗総合研究所 出版社：浄土宗出版 出版年：2011
- ②浄土三部経（現代語版）浄土真宗聖典 著者：浄土真宗本願寺派総合研究所 出版社：本願寺出版社 出版年：1996
- ③浄土三部経 著者：中村元、紀野一義、早島鏡正 出版社：岩波書店 出版年：1990